

## 資料① 「Ao-na」開館 にぎわう

横手市に新しくオープンした複合施設「アオーナ」は、単なる図書館や交流スペースにとどまらず、地域全体の学びに大きな役割を果たす可能性を感じた。特に、子どもから高齢者まで幅広い世代が気軽に利用できる施設である点は、人口減少や地域の高齢化が進む横手において非常に重要であると考えている。私は昨年12月に初めてアオーナを利用した。年明けに試験が控えていたため、アオーナの学習スペースをよく活用した。記事にもある通り、自分のお気に入りの場所を見つけることができ、1階の仕切りのあるスペースでは、集中して勉強に取り組むことができた。今後「アオーナ」が地域に根付き、市民一人ひとりの暮らしを豊かにしていく姿をぜひ見てみたいと感じた。

この記事を読んで、自分が中高生のころに Ao-na が開館していたらなと感じた。Ao-na は、かつての横手図書館の機能と生涯学習機能を融合させ、人と人とが「つどい、つながる交流拠点」をコンセプトとした生涯学習館である。1階がコミュニティスクエア、2階が一般図書フロア、3階が児童図書フロアになっているという点が特徴的であり、特に1階に小学5年生から20歳未満までが入室でき、子どもの自主性を尊重するために使用ルールが最低限にとどめられているティーンズエリアは、小中高生の利用を促進させるのではないかと考えた。また、近くにスーパーやY2プラザがあることから、まさに老若男女問わず全ての人々が集まる横手の交流拠点といえるのではないかと考える。

Ao-na が開館してから横手の雰囲気がとても良くなったと感じる。以前は横手駅の東口を出るとすぐに廃ビルなどが目に入ることもあり、横手は寂れた街だという印象があった。しかし、現在は Ao-na をはじめとする現代的な建物が建っており、寂れたような印象はなくなっていた。今年帰省した際、何度か Ao-na を利用させていただいたが、施設内では学習や運動をする学生たちが集まっており、以前より駅周辺が活気づいていると感じた。また、Ao-na のモニュメントは親しみやすいデザインで、駅を出てすぐ目に入るということもあり、横手の新たなランドマークのようになっていた。また、施設内は木目調で設備も充実しており、非常に居心地が良かった。

横手駅東口再開発事業は、横手に住んでいる方にも、外から横手を訪れる方に対しても良い影響を与えられていると思う。これを契機に横手全体が盛り上がって行くことを期待したい。

この資料を読んで、生涯学習施設である「Ao-na」が横手地区の老若男女にとってこれから確実に大きな存在になるだろうと強く感じました。私が以前横手市内の高校に通っていた際、主に駅中での学習スペースの確保が難しく、なかなか自主学習が進められないという事態が多々ありました。ですが「Ao-na」ができたことにより、図書館や自主学習スパー

スはもちろん、談笑するスペースや運動スペースが十分にあるため、学生だけでなく、横手市で活動するすべての人間が気軽に訪れてそれぞれの目的を果たしやすくなりました。しかも、館内におけるロボットの導入を進めているとのことなので、文化的な進歩がより一層横手市発展をもたらすだろうと確信しています。

今回の記事を読み、横手市に新しく開館した複合施設「Ao-na」が、地域にとって重要な意味を持つと感じました。駅東口という立地はアクセスが良く、市民だけでなく観光客にとっても利用しやすい場所です。図書館や交流スペースが整備されることで、幅広い世代が集まり、学習や交流の拠点として機能する点に大きな可能性を感じました。単なる公共施設ではなく、地域の人々をつなぐ新しいコミュニティ形成の場になるのではないかと思います。

特に印象的だったのは、モニュメントや検索ロボット「トト」といった親しみやすい仕掛けです。従来の図書館にはなかった要素であり、若い世代や子どもたちにとって図書館が身近に感じられる工夫だと思いました。学びと遊びを結びつける発想は、今後の公共施設に求められる姿勢だと考えます。

また、開館セレモニーに多くの市民が訪れたことから、地域の期待の大きさが伝わってきました。地方都市では人口減少や高齢化といった課題が深刻ですが、このような新しい施設が生まれることで、住民の生活の質や地域の魅力向上につながる可能性があります。大学生として地域社会の課題に関心を持つ立場から、この「Ao-na」が横手市の文化や人々の交流をどのように支えていくのか、今後の展開を見守りたいと感じました。

地元である横手駅東口に「Ao-na」が誕生した記事を拝見しました。先日私も訪れましたが、記事の通り木の温もりを感じる広々とした空間は本当に心地よく、多くの市民が思い思いの時間を過ごしている姿に、新しい交流拠点が生まれたのだと実感しました。

セレモニーに横手市の高校生が主体的に参加している様子も、地域に活気が生まれているようで嬉しいです。会話ができるロボットなど、子どもたちが本に親しむ工夫も素晴らしいと感じます。多くの市民にとって「お気に入りの場所」となることを確信しましたし、私自身もこれからたくさん利用し、この場所の成長を見守っていきたいです。

帰省するとひととき目を引く新しい建物、横手駅前にできた「Ao-na」を訪れました。駅からすぐの場所にあり、地域の誰もが立ち寄れる雰囲気を持つこの施設は、単なる図書館や交流の場を超えた大きな可能性を感じさせてくれました。教育を学んでいる身として、特に子どもや若者にとっての意義について強く考えさせられました。一階には、友達と語り合う生徒や、一人で勉強している高校生の姿がありました。ティーンズエリアの存在は、学校や家庭以外に安心して過ごせる「第三の居場所」として重要だと思います。学校教育の中では十分に満たされない「自分らしく過ごす時間」や「異年齢の交流の場」が、こうした公共施

設によって補われていると感じました。二階と三階の図書館は、落ち着いて学習に取り組める環境が整っており、小学生が絵本を手にする姿や、大学生や社会人がパソコンを広げて作業する様子が同じ空間にあることで、世代を超えた「学びの文化」が共有されていると実感しました。教育は学校だけで完結するものではなく、地域全体で支え合うものだという考えを、Ao-naの姿から改めて学びました。

横手駅東口に開館した「Ao-na」の記事を読み、実際に訪れた時のことを思い出した。大きな窓から光が入る館内では、話したことのない人とも、同じ空間にいただけでつながっているような心地よさがあった。学生時代、私は駅前の図書館に毎日のように通っていたので、新しい姿を目にすると、昔の自分に会ったような懐かしさが広がった。モニュメントのお披露目は少し照れくさいほど華やかで、それでも地域の人々の笑顔がやさしく場を包み込んでいたのが印象的だ。本を読むだけでなく、思い思いに過ごせる居場所として、これからも多くの人に寄り添う空間になると感じた。

本が好きなわたしは、Ao-naが開店早々に訪問した。何かセレモニーが行われている横を通り、階段を上がった。その広さにまず驚いた。そして、ゆったりとした空間や様々な座席に。これが新しい時代の、令和の図書館だと感じた。秋田杉の内装も懐かしい気分になり、気分が落ち着いた。

また、図書館の利用時間が21時まで延ばされていたのが嬉しかった。これならば、仕事帰りにも、気楽に立ち寄ることが出来て、便利だと思った。館内を歩いていたら、大きな猫がいた。どうやらロボットらしい。何のロボットかと思えば、資料によると蔵書点検ロボットで、なおかつ会話も出来るという。レストランなどで、配膳ロボットは見慣れてきたが、図書館でロボットなんて。近未来の世界にいるような感覚に酔いそうだ。

今月もまた図書館に訪問したが、夏休みもあり老若男女でにぎわっていた。新しい市民の憩いの場所だと感じた。

私はこの記事にある「Ao-na」が開館した直後から、受験勉強のために頻繁に利用していました。毎週末、朝の開館時間から夜まで机に向かって勉強する日々を続けていましたが、長時間集中して取り組むことができたのは、Ao-naの快適な環境があったからだと感じています。記事にもある通り、Ao-naには多様な機能が備わっており、その点が大きな魅力だと思います。特に勉強スペースが多く、疲れたり集中力が途切れたりした際には別の席に移動することで気分を切り替えられるのが非常に助かりました。また、勉強だけでなく、談笑や運動ができるスペースも設けられており、学生だけでなく地域の子供から高齢者まで、幅広い世代が憩える場所となっている点も素晴らしいと思います。私にとってAo-naは、受験勉強を最後までやり抜く力を支えてくれた存在であり、これからも多くの人々にとって大切な場になっていくと感じました。

1 階は学習や運動、食事ができるスペース、2 階と 3 階は図書館となっており、図書館としての機能だけでなく様々な利用の仕方が可能な複合施設のようなものとなっているため、この地域で活動しているどの年代の方でも心身を安らげる場所となっていると思われる。また、横手駅の目の前に建てられているためアクセスがしやすく、違う地域から来た人でも立ち寄りやすい場所であるため、新たな居場所ができたような感じがする。入り口から入ってすぐに階段があり、空間の中央あたりに配置され、吹き抜けとなっているため周り全体を見回すことができ、広さや自由さを感じられた。図書館部分は全体が大まかに円となっており、きれいに整頓された本を見ながら 1 周することができて動線もわかりやすいと思った。私が高校生の時にあれば暇な時間を有意義に活用できたため、そこは少し残念なところである。

横手市に新たな複合型の施設が開業したことにより、活性化が図られることだろうと感じた。「Ao—na」の完成により横手市の人々が集まりにぎわう場ができたと考える。特に学習機能と図書館機能に加え、運動機能が組み合わさってできていることがすごいと感じる。複数の機能があることによって、今まで関りのなかった人々が交わる場となり、横手の町の人々に新たな出会いや発見を与えてくれることだろう。

私も実際に「Ao—na」足を運んだことがあり、営業時間が遅い点にもメリットを感じた。テスト期間の学生や、仕事終わりの会社員も利用でき、横手市に住む人々の暮らしを豊かにしてくれるだろうと考える。今後も「Ao—na」を中心に発展してほしい。